

項目	重点項目	達成目標・ 具体的施策	年度末評価	学校関係者評価
	「愛情」を基盤とした 自尊感情の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「お子さんはこども園に行くことを楽しいと感じている。」「お子さんは様々な保育者と関わっていると感じる」と回答した人の割合が、8割以上になる。</li> <li>子どもの日々の様子や保育者との関わりが保護者にも伝わるようにホームページやGoogleを用いて毎日発信する。</li> <li>保育者間で子どもへの関わり方について考える研修の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおいて「お子さんはこども園に行くことを楽しいと感じている。」「お子さんは様々な保育者と関わっていると感じる」の項目で肯定的回答率が8割を超えた。</li> <li>自己発信している子どもの姿を積極的に発信してきた。</li> <li>参観日では日々の様子や遊びの過程を動画で分かりやすく発信し、保護者の肯定的な評価が得られた。</li> <li>アンケートにおいて「こども園はホームページやGoogleを通して園での様子を発信している」の項目で肯定的回答率が97%となり達成することができた。</li> <li>写真を用いた読み取りを通して子ども理解を深めてきた。子どもの成長を捉え、個々に応じた対応を模索してきた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートより、子どもは担任との関係は築けているが、様々な保育者と関わっていると捉えている保護者は少ないと読み取れた。子どもが様々な保育者と関わっていることが伝わる方法について検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを毎日発信している等、良い取り組みをされている。気になる点として、一定の人の写真しか載らないとなると公平性に欠けると感じる保護者がいるのではないかと。そのあたりの配慮も必要ではないかと。</li> <li>日中(園)の子どもを保護者は見ることができないため、写真の発信などのツールで伝えてもらえることがありがたいと思う。</li> <li>自己発信できる環境の中で、自由に遊ぶから学びがあるということが伝わった。</li> <li>従来の幼稚園のイメージは子どもに指示をして活動しているように感じていたが、こども園の子ども達は自分の意志で動いていた。</li> <li>子どもの目線に合わせたハンドメイドの色々な工夫がされていると感じた。</li> </ul>
学びの場である保育の充実	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こども園は子どもが活動する中で、心弾ませられるような環境を整えている。」の肯定的回答の割合が85%以上になる。</li> <li>乳児は週1回クラスごとに話し合いをして子どもの姿を読みとる。</li> <li>一人一人の子どもの姿を3歳児は月1回、4、5歳児は年に3回程度各クラスで写真から読みとり、幼児理解につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおいて「こども園は子どもが活動する中で、心弾ませられるような環境を整えている。」の項目で肯定的回答率が85、2%となり達成することができた。</li> <li>乳児は週一回クラスごとの話し合いを行ったことで子ども理解につなげ環境の再構成に努めることができた。また保護者アンケート(乳児)でも「子どもの様子や成長を保護者と共有する機会をもっている」の項目で、肯定的回答率が100%となり達成することができた。</li> <li>写真と読み取りシートを活用した読み取りが、子ども理解の深まりにつながった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真を用いて子ども理解を深めることを継続的に行ってきたが、環境の構成のための時間の確保が難しかった。継続課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主性、個人の意思を大事にして取り組んでいることがよくわかった。具体的にわかりやすく取り組んでいると感じる。</li> <li>『決める→守る→なおす→守る』を意識してはどうか。決めたことを守るだけでなく、うまくいかないときには見直し、修正したものを守ることも大事である。次年度からの参考にしてほしい。</li> <li>読み取りシートは分かりやすく、5歳児動画内の「気まずさも学び」という捉えに感心した。小学校も同様に教師が教えすぎではいけないと感じている。ただ、子ども任せになってはいけない部分もあり、子どもの主体性と教師が教えることのバランスの難しさがある。こども園での学びの原動力、好奇心が続くことを願う。</li> </ul>
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて、「子どもはこども園で他の人への思いやりについて学んでいる」と回答した人の割合が、85%以上になる。</li> <li>開園初年度のため、これから仲間関係を深めていくことが大切である。</li> <li>子どもと作品を見せ合ったり気づいたことを伝え合ったりする姿を通して仲間関係を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおいて、「お子さんはこども園で他の人への思いやりについて学んでいる」の項目で肯定的回答率が89%となり達成することができた。</li> <li>クラスを区切るパーティションがないことで、子どもが行き来しやすく、遊びの場を共有して関わることができている。5歳児に憧れの気持ちをもって遊びを真似たり、年下の子どもが困っていたら助けてあげたいと思ったりするなど、日々互いのしていることを気にかけていた。</li> <li>クラス内でも互いの遊びを意識し、気づいたことを伝え合うことで遊びが発展したり関わる友達が増えたりして、仲間関係が深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーティションがないことで3、4、5歳が混合されることはないのかと不安を感じたが、子どもの様子を見たり話を聞いたりして、子どもが意思を持ち自主性が尊重される環境であることが素晴らしいと感じた。</li> <li>こども園で過ごした5歳児が小学校とのギャップに戸惑わないのかと感じた。</li> <li>学校教育もタブレット等が導入され、授業の内容は変化している。例えば、意見を表出しにくい子どもがタブレットの画面共有をすることで輝くなどの場面が見られている。様々な方法で保護者に子どもの姿を伝えてほしい。</li> </ul>

			<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが思いやりをもって接している姿を保護者に意識して伝える。</li> <li>互いの存在を知り合うことができた。次年度はさらに違いを認め合える仲間関係になるように職員間で子どもの姿を語り合い、教育・保育に計画的に取り組む。</li> </ul>	
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの資質能力を育む教育保育について共通理解する機会を年間10回程度持つ。</li> <li>講師を招聘した園内研修を年1回持つ。</li> <li>学んだことを具体的に保育に活かせるように職員全体に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で写真を用いて子どもの姿を語り合い共通理解する機会を10回以上のもつことができた。今後も引き続き取り組んでいく。</li> <li>講師を招聘した園内研修で幼児は読み取りシートを用いて子ども理解につながる共通理解をすることができた。乳児は週一回のクラス会議でより子ども理解が深まった。</li> <li>園外の研修等で学んだ資料や参考文献を紹介して、学ぶ機会をもった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語り合いの大切さを感じているが時間の確保が難しい。語り合いを継続できるように計画的に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校でも時間の確保は難しいが、会議の日をできるだけ集中させ、子どもの学習保障をする日、教師の教材研究をする日や定時退勤日を設けるなどして、メリハリや見通しを持った時間の使い方をしている。</li> <li>保育者の数は国の設置基準で決まっているが、少しでも時間の確保をするためには人的配置を増やすなど待遇をよくするしかないのではと感じる。</li> <li>小学校のクラス児童数は兵庫県独自の取り組みがある。</li> </ul>
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>週一回、乳児クラス会議・幼児会議を行う。</li> <li>よりよいチームとなるように行事に限らず平素の教育・保育から子どもへの声掛けや関わり方など、些細なことも語り合い、共通理解が図れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週一回の会議に限らず教育・保育の中で声を掛けあうことで、クラスだけでなく、幼児は学年や棟、乳児は全体で子どもの姿を捉えることにつながった。</li> <li>子どもの姿や園運営についてなどを、正規職員会議や月一回の職員会議で細やかに話し合うことができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正規職員での会議が多かったため、会計年度職員とも子どもの姿や園運営の理解を深められるように、今後は棟会議を増やすなど会議の持ち方を工夫したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職種を超えて職員全員が保育者(子どもの教育・保育に携わる人)であるという意識を持つという取り組みがよいと思う。次年度も全員で取り組むことを密に考えてほしい。</li> <li>調理室も子どもと目線が合いやすく良い環境だと感じた。</li> </ul>
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>園での学びやひととなり地域小学校へつなぎ相互理解を深める。</li> <li>幼児期における主体性が小学校以降の学習意欲の土台となるように保育者間で子どもの実態を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との就学前の引継ぎで園での学びや人となりを伝えることができた。</li> <li>笹原公園緑部花グループの方から花を頂き、園で育て教育・保育に活用した。写真や手紙で花の成長の様子を伝え、地域との交流を図った。</li> <li>幼小接続の研修に参加し幼児期と児童期の学びの円滑な接続について理解を深めた。</li> <li>発達や子ども理解について幼児、乳児や各棟で綿密に話し合った。また全体職員会議の中で写真や動画をツールとして子どもの姿や育ちを職員間で共有してきた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の職員を招いて、乳幼児期の遊びを通した学びの理解を深める研修や情報共有を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との接続については園からの発信や提案を期待したい。</li> <li>笹原小学校は教育のユニバーサルデザイン化に取り組み、一定の評価を得ている。誰が見てもすぐわかるものという視点は、就学前の子どもにも通ずるところがある。</li> </ul>